

地域になくてもならないもの

津屋崎の産土神である波折神社。地域で大切に守られ、愛されている神社です。今年7月9日に本殿など4棟の建造物が国の有形文化財に登録され、文化財として末永く保存されることになりました。古いまちなみは自然に残っているようにみえて、実は地域の人たちの手入れによって守られています。今月の特集では、文化財に登録された建造物を紹介するとともに、波折神社を未来につないでいこうと活動するかたがたに、神社の魅力を語ってもらいました。

問い合わせ 市文化財課 ☎0940・62・5093



▶文化財登録証伝達式が8月6日、波折神社で催されました。福井市長から登録証を伝達された野上宮司は「今後も大切に保存したい」と語っていました



創建に関わる由緒と立地

波折神社では瀬織津姫大神、住吉大神、志賀大神をご祭神として祀っています。神功皇后が渡半島の鼓島に現れたのが神社を津屋崎の地に祀ったのが神社の始まりとされています。創建時期はよく分かっています。元が、鎌倉時代の1221年に「宮ノ元」から現在の場所に遷座したと伝えられています。宮ノ



▲宗像漁協津屋崎支所に飾られている昔の鼓島の写真。昭和30年ごろは松が生えている

元は神社の東方500mの場所に地名として残っています。また、波折神社の遷座当時、神社の北には大きな入り海が広がっていました。神社は入り海の出口をふさぐように延びた砂丘の先端に鎮座しています。現在の姿からは想像しにくいですが、鎌倉時代の波折神社は岬の先端で周囲を海に囲まれた景観だったと推定できます。海を強く意識した立地で、神社の創建は海との関わりにあったといえます。

津屋崎のまちなみの中心

波折神社は津屋崎の「まち」の成立を物語る存在でもあります。「津屋崎」という地名が史料に初めて登場するのは南北

朝時代の1375年ですが、波折神社の遷座年はこれを100年以上さかのぼる1221年です。この直後の1231年に近くに所在する教安寺も開基しています。まちの中心的な施設である神社や寺が相次いで成立したこの時期に「まち」は骨格を整えたといえます。後に「津屋崎千軒」と呼ばれるほど栄え、波折神社の社殿は幾度となく建て替えられてきましたが、神社はまちの成立以降、一貫してまちなみの中心として存在し続けてきました。



知ってる？
波折の由来

波を折って 漁師を救った

はるか昔、津屋崎の漁師3人が海で風難に遭遇しました。そのとき、海上に三柱の神様が現れました。神様は自らの袖で波を打ち払って彼らを救いました。その後、難を逃れた彼らは鼓島に漂着しますが、風を待つこと3日間、飢えに苦しみます。すると再度、舟の上に三柱の神様が現れ、彼らに食料を与えます。食べ物を口にした彼らはたちまち元氣になり、自力で舟をこぎ津屋崎に帰り着くことができました。神様が去った後、舟に3つの霊石が残っていました。彼らはそれを奉じて社に祀りました。このときから社を波折社と呼ぶようになったということです。

ここもいち押し！ 波折神社あれこれ



▲本殿の妻飾りの彫刻は装飾性豊か。本来は着色されていた



▲拝殿内部はあえて天井をつくらず、豪勢な二重虹梁を見せつけている



▲江戸時代から、神木として祀られている銀杏。幹周りは3mを超えます



▲300年以上の歴史ある山笠。7月中旬に津屋崎を勇壮に駆け抜けます



③手水舎



④二ノ鳥居



①本殿



②拝殿及び幣殿

波折神社の 登録 文化財

①1890年建立。2021年改修。妻飾りを唐獅子、麒麟、波濤文などの彫刻で華やかに飾る②1920年建立。1979年改修。拝殿の背面に幣殿が接続する。内部に天井をつくらず豪勢な梁(二重虹梁)を現す③1922年建立。社務所の向かいに所在。南に井戸、北に手水鉢を配置する④1920年建立。花こう岩で作られた明神鳥居。拝殿及び幣殿の再建に伴い建立

近代津屋崎の 発展を伝える 神社建築

装飾性豊かで豪勢な造り

文化財に登録された建造物はいずれも明治から大正期に建立されたものです。本殿、拝殿及び幣殿は造形の規範となる建造物として、手水舎、二ノ鳥居は歴史的景観に寄与する建造物として評価されました。特に、本殿妻飾りの唐獅子や麒麟、波濤などの華やかな彫刻、拝殿内部の存在感のある梁(二重虹梁)というなどは見所です。装飾性豊かで豪勢な造りからは近代津屋崎の旺盛な経済力をうかがうことができます。

時勢に対応しながら発展

江戸時代から明治時代にかけて、津屋崎は塩田の積出港としてにぎわいますが、明治末期になると塩田廃止のあおりを受けて活力を失いかけていきます。しかし、その後の海水浴場開設や馬車鉄道開通などの各種施策が功を奏して挽回し、海浜リゾート地として発展していききました。華やかで豪勢な波折神社の建造物は、時勢に対応しながら発展した近代津屋崎の姿を私たちに教えてくれます。

遷座800年祭を契機に

2021年に波折神社は遷座800年を迎えました。遷座800年祭を開催するための実行委員会が立ち上げられ、神社を盛り上げようとさまざまな活動が開始されました。特に、浄財を募って実施された本殿の改修では、これまで本殿の壁を覆っていた霜よけが取り払われ、華やかな彫刻で飾った外観を見ることができるようになりました。遷座800年祭を契機とした活動は現在も続き、神社には地域住民が集い、県外や国外からも参拝客が訪れています。波折神社は、登録文化財となった建造物とともに、次の遷座900年に向けて動き出しています。

昔と今と
これからと



他にもある

福津市内の 国指定・登録文化財

【国指定】史跡

・津屋崎古墳群

5世紀から7世紀にかけて、玄界灘を望む福津市北部の台地上に築かれた古墳群。全長100m前後の前方後円墳を含む60基が現存している。

【国宝】有形文化財(考古資料)

・宮地嶽古墳出土品

大型の切石を使用した全長23m以上の石室を有する宮地嶽古墳から出土した遺物。全長3m前後の大型の金銅装束頭椎太刀、金銅壺などがある。

・筑前国宮地嶽神社境内出土骨蔵器

宮地嶽古墳の近くで発見された骨蔵器で、8世紀前半の瑠璃壺および銅壺。

【国指定】有形文化財(建造物)

・豊村酒造旧醸造場施設

明治期に県下最大級の醸造量を誇った日本酒醸造施設群。明治から大正期にかけて整備された一連の醸造施設が残っている。



【国登録】有形文化財(建造物)

・旧上妻家住宅(津屋崎千軒民俗館藍の家)主屋

1901年建築の藍染紺屋。木造2階建、瓦ぶきで、両袖の壁、一階正面の格子、土壁など、町家建築の姿を良く残す建物。



【国登録】有形文化財(建造物)

・旧上妻家住宅(津屋崎千軒民俗館藍の家)井戸屋形

主屋と同時期の明治時代後期の建築。六角形平面の屋根に柱を立て、全体を数寄屋風の意匠でささやかに飾る建物。



【国登録】有形文化財(建造物)

・旧玉乃井旅館

津屋崎千軒地区で唯一残る木造旅館。木造旅館が建ち並んだ津屋崎海水浴場の景観を現在に伝える1909年建築の貴重な文化財。



想いを未来の世代に伝えたい

波折神社は地域にとつてどのような存在なのでしょう。宮司、総代会会長、遷座800年祭実行委員会を中心メンバーが一堂に会し、語ってもらいました。

―登録文化財になった今の気持ち聞かせてください。

野上 氏子のかたがずっと守ってきたものが文化財になったということ。これを後世につながないといけないという使命感がありますね。

津崎 非常にうれしいです。国の文化財になったのはすごいこと。誇れる建造物です。皆さんにぜひ波折神社に遊びに来てほしいです。

―地域にとって波折神社はどういう存在ですか？

塚本 地域の守り神、精神の拠り所という感じでしょうか。何かあったらとりあえず神社にお参りしようとなります。地域に根差した神社です。

大賀 みんなが集まる場所という感じです。一時、神社離れがあつて心配しましたが、遷座800年祭を機にやっと盛り返してきました。活動を続けてきてよかったです。

竜口 私の住まいは天神町で神社から離れているので、子どもたちは祭りに参加したり見物したりするくらいでした。

大賀 遷座800年祭の事業として本殿、拝殿の改修と石畳の整備をしました。

津崎 古賀市のすごい棟梁と縁があり、改修予算は少なかつたですが「お金じゃないので自分に任せてください」と言われて、協力いただきました。

船津 遷座800年祭を契機に波朋会という女性の会もできました。7、8人のメンバーが盛り上げてくれています。

津崎 元々はオーソドックスな神社だったんです。準備を進める中で、お守りほしいね、おみくじがあつたらいいね、とかみんなで話しながら充実させてきた感じです。

―登録文化財をこれからどのように保存活用していきたいですか。

野上 津屋崎の財産、福津市の財産ですので大切に守っていききたいです。また、その気持ちを氏子のかたがたや未来の世代に伝えていきたいです。

塚本 建造物を保存していくためには、害虫駆除など、定期的な維持管理が大切です。今後は保存活用と維持管理、両方をやっていききたいです。



▲写真左から順に、船津廣見さん(岡ノ二区／74歳)、津崎寛さん(岡ノ二区／73歳)、宮司の野上雅貴さん(新東区／73歳)、氏子総代会会長の塚本一男さん(岡ノ二区／64歳)、大賀英一さん(岡ノ二区／77歳)、竜口正幸さん(天神町区／72歳)。船津さん、津崎さん、大賀さん、竜口さんは遷座800年祭実行員会の中心メンバー

総代になってから深く関わるようになりました。神社を継続させていくのは大変ですが、遷座800年祭のおかげで良い方向に動き出しました。

船津 津屋崎で生まれ育って74年、一歩も外に出たことがないので、ここで大きな木を見ると落ち着きます。

津崎 山笠などの神社の祭りを通して老若男女が集い、仲良くなることができます。今の時代、子どもから年配のかたまで一体になって楽しめる場は祭り以外にはないので、こういう伝統行事は残していきたいです。

―遷座800年祭のことを聞かせてください。

津崎 私が総代会長のときに100年に一回の祭りをどうするかという話になって実行委員会を立ち上げ、本日集まっているメンバーに助けてもらいながら準備を進めました。

竜口 2021年が遷座800年祭の年で、2020年から具体的に動き始めました。協賛金を集め始めたところでコロナ禍が始まり、延期の意見も出たのですが、最終的には予定どおり実施しました。



まだまだある

福津市内の県指定文化財

〔県指定〕有形文化財「工芸・祭鐘」

1697年に奴山の農民が掘り出した梵鐘。今井鋳物師の作で、1440年に宗像大宮司氏俊と藤原道珍が奴山の縫殿宮に奉納したことが分かる銘文がある。

〔県指定〕有形文化財「文財」

・一楽院文書並びに法具類

在自の金刀比羅神社に残る修験関係の資料。1710年から1845年にかけての補人状、免許状などがある。

〔県指定〕有形民俗彫刻

・木造釈迦如来立像
頭髮やインド風の衣文を特色とする清涼寺式の釈迦如来像。鎌倉時代末ごろのものと考えられている。下関にあったものを、明治に勝浦の円通寺に移したといわれている。

〔県指定〕有形文化財「考古資料」

・新原の百塔板碑
新原・奴山21号墳の墳丘上にある板碑群。仏像や梵字を彫った板碑が8基含まれている。



〔県指定〕有形民俗文化財

・天正三年拾月起拾月祭座帳
舍利蔵で行われてきた十月祭の座帳。十月祭参加者の名と供物が記入されている。



・福岡浦鰯漁絵馬 附寛政六年銘
鰯漁の大漁を祝って、1857年に諏訪神社へ奉納された絵馬。大漁の様子を描いたもの。



〔県指定〕天然記念物

・恋の浦海岸

約3500万年前の珪化木、木の葉、魚貝類の化石などがある。また、火成岩や堆積岩の露頭が多いことも特徴。

・舍利蔵のなぎの木

舍利蔵の観音院境内にあるなぎの木の群落。5本が指定されており、大きいものは幹周り3mに達している。

先人たちのおかげで、今がある

波折神社の史料を整理したという、地元に住む大賀康子さんに話を聞いてみました。

神社の歴史を紐解くと 津屋崎の歴史が見えてくる

結婚をきっかけに、昭和36年に津屋崎に引っ越してきましたが、夫の転勤のため半年ほどで東京に行くことになりました。当時は波折神社との関わりはなく、最初に関わったのは、娘が3歳のときに帰省して七五三のお参りをしたときでした。

昭和60年に津屋崎に帰ってきたからの40年、神社のさまざまな行事に関わってきました。当時は祭りには仕事を休んでも参加する人が多かったのですが、夫

は銀行勤めで休めなかったので、私が代わりに参加することが多かったです。山笠では男性は山を昇りますが、女性には直会(なおひ)の料理を作るのが仕事でしたので、前日の晩から仕込んでいました。

遷座800年祭の実行委員会が立ち上がり、実行委員として神社所蔵史料の整理を担当しました。史料は衣装ケースに無造作に入れられ、整理されていませんでした。史料を持ち帰って部屋で年代順に並べ、年代のないものは別枠でまとめて整理整頓して目録を作りました。2、3年かかりましたね。

また、境内の小社について



▲市文化財保護審議会委員の大賀康子さん(北の1区)。審議会で副会長を務める傍ら、郷土史会でも長らく活動。福津市の郷土史を広く研究

も説明ができるよう徹底的に調べました。この調査で驚いたのが座頭社の存在です。明治時代に座頭も廃止になりましたので、これはとても珍しく、市内どこを調べても残っていません。調査を進める中で、明治以降も津屋崎に座頭の歴史があることが分かりました。それが社として境内に残っていることが素晴らしいと思います。

多くの人に神社の 価値を知ってほしい

波折神社は津屋崎の産土神。産土神は自分が生まれた土地の神様で、別の場所に住んでも一生守ってくれる神様。私はその広がりがとても好きです。これまでは地域で大切に守られてきましたが、先人たちの努力を国が認めてくれて、国の登録文化財になったことはとてもうれしいです。本殿の彫り物など、地元の人もどんな価値があるのか分かりづらいと思います。調査で分かったことを知ってもらい、多くの人に神社を訪れてほしいです。

暮らしは樺(たすけ)リレーのようにつながっている

津屋崎に移住し、まちおこしに取り組んできた山口寛さんに話を聞いてみました。

神社を中心に みんなが一緒に生きている

氏神様と氏子の関係は、都会では当たり前ではありません。しかし実際に津屋崎に移り住んでみると、春夏秋冬の神社の行事を通して、みんなが一緒に生きている感覚を深いところを感じます。北九州市の新興住宅街で育って、そういう文化は身の回りになかったのだから新鮮でした。波折神社で結婚式を挙げましたが、当日は地域のかたがたがたくさん来てくれました。神社で何か華やかなことがあると、みんなが幸せになるんだと強く感じました。

しかし一方で、神社の存在が遠くなっていると聞くこともありましたし、僕が移り住んだときには大みそかや正月の参拝者も少ない状況でした。今は山笠の仲間たちの活動などで人が増えてつつあります。このような中で、波折神社に関心を持つてもら

うことはとても大事で、今回、建造物が国の登録文化財になったことは一つの箔付けになり、市外から来る人も増えるでしょう。外部から評価されると、内部の人も再評価するようなどころがあるので、そういう意味でも文化財に登録されたことは本場にうれしいです。

神社は存在し続けることに 意味がある

まちは新陳代謝が大事です。古いものを残すことはとても大事ですが、古いものを残しながら新しいものを受け入れ



▲津屋崎ブランチの山口寛さん(岡の3区)。旧津屋崎町時代からまちづくりに関わる。その後、津屋崎に移住。津屋崎千軒のまちなみ保存に尽力



いきなり

街角インタビュー

声

守り続けてきた先人に敬意

これまで守り続けてきた人々に敬意しかない。藍の家保存会でも文化財巡りを企画しているので、自信を持って説明できるようにしたい。



藍の家保存会
古閑 由美さん

一緒に盛り上げたい

津屋崎千軒に文化財が増えてうれしい。観光客が増えて、地域が盛り上がってほしいし、一緒に盛り上げていきたい。



豊村酒造
豊村 祐三郎さん

漁業の神様が文化財に

私たちは波折神社の六之宮で年2回、祭りを行っている。神事の舞台である波折神社の建造物が文化財に登録されたことはとてもありがたい。



津屋崎で漁業を営む
西住 芳弘さん

多くの人に知ってほしい

文化財に登録されて非常に光栄。郷づくりでは津屋崎千軒でのウォークラリーを企画中。市外の人にも知ってもらいたい。



津屋崎地域郷づくり
推進協議会
古川 浩二さん

観光イベントを企画中

文化財登録はすぐうれしかった。津屋崎千軒は古いまちなみが残っているので、観光協会でも千軒を巡るイベントを企画していく。



ふくつ観光協会
友 千明さん